

(様式3)

【松江市学校用】

## ふるさと教育 取組事例

学校名	松江市立竹矢小学校		
学年	主な教科等	主に関わる単元名	活用した教育資源 (ひと・もの・こと)
3	総合	松江の宝「ホーランエンヤ」を PRしよう！	ホーランエンヤ伝承館 馬潟権伝馬船保存会
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・伝承館の見学や保存会の方々との交流学习等を通して、地域の伝統行事「ホーランエンヤ」への理解を深めるとともに、地域の方の願いや思いを感じ取る。</li> <li>・調べたことを新聞にまとめ、下学年にPRすることを通して、地域の一員として主体的に伝統を伝えようとする力を高める。</li> </ul>		
<p><b>1 取組の概要</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ホーランエンヤについて想起(1年：中日祭見学、2年：3年生の発表を聞いたこと)し関心を持つ。</li> <li>○ホーランエンヤ伝承館や城山稲荷神社で見聞きしたことをメモに取る。</li> <li>○馬潟権伝馬船保存会の方からの説明や、道具や衣装にふれて感じたことをメモしたり、知りたいことを質問したりする。</li> <li>○見学等で分かったことや更に知りたいことを整理し、資料やPCを使って調べる。</li> <li>○事実(記事)と自分の考え・感想(社説)を区別して、個々に新聞にまとめる。</li> <li>○4～5人のグループに分かれ、各々の記事の中から2年生に伝えたいことを選び、伝える方法を決めて発表する。</li> </ul> <p><b>2 ふるさとの「ひと・もの・こと」をどのような力を付けるために、どのような意図をもって活用したか。</b> (ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○本物にふれることで主体性を育成             <ul style="list-style-type: none"> <li>・正しい知識を的確に学べるように、ホーランエンヤ伝承館で、DVD視聴によりホーランエンヤのあらましを掴んだ後、専門の方から分かりやすい説明を聞きながら展示物を見るようにした。またホーランエンヤの一番船としての誇りを体感できるように、馬潟権伝馬船の模型に乗って剣権などの役を演じる体験の場を設定した。</li> <li>・伝統を守り受け継いでいくことへの喜びや責任の重さなど、保存会の方々の願いや思いを自分事として感じ取れるよう、ホーランエンヤの唄を一緒に唄ったり剣権の踊りや太鼓打ちを教えてもらったりする体験コーナーや、自分の疑問にその場で直に答えてもらえる小グループでの質問コーナーを設け、密接な交流ができるようにした。</li> </ul> </li> </ul> <p>(学力育成の視点から)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○調べたことを整理し、まとめ、発信する情報リテラシーを育成             <ul style="list-style-type: none"> <li>・「松江市小中一貫基本カリキュラム」の「学び方指導體系表」に沿って、中学年では学んだことを関係付けながら学習していけるように、既習事項や他教科での学習を系統的・計画的に指導した。一例を挙げると、本学習に入る前に国語科でメモの取り方や情報カードを使った要約の学習を、社会科で年表や地図を読み取る学習を行うなどをした。</li> <li>・「2年生にホーランエンヤのPRをする」という学習をゴールに掲げ、導入時に皆で確認したことで、常に目的や相手を意識しながら情報を収集し整理することができた。事実(ホーランエンヤについて何が分かったのか)と意見・感想(保存会の方々が伝えようとした思いや願いを自分はどう感じ取ったのか)を区別して新聞形式に各自がまとめたことで、発表内容や方法についてグループで話し合いがスムーズに行えた。</li> </ul> </li> </ul>			

\*取組の様子がわかるような写真を数枚貼り付けてください。

(このデータをHP等に掲載することがありますので、写真は必ず承諾を得たものを貼り付けてください。)



(ホーランエンヤ保存会の方のお話)



(発表会の様子)

3 児童・生徒に見られた変容（どのような力が身に付いたか等）  
（ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から）

竹矢はホーランエンヤに深い関わりがあるが、10年に一度の式年神幸祭であり、参加できるのも一部の地区の男子ということで、本学習の導入時、保護者世代からは「あまり知らない。」という声が聞かれた。だが、毎年3年生の総合的な学習の時間に取り組んでおり、3年生から2年生に発表するという学年交流を継続しているので、児童からは「いよいよ自分達の出番がやってきた！」と楽しみにしている声が聞かれた。伝承館で得た知的な情報をベースに、保存会の方々から苦労や努力、喜びや誇りといった心情面を具体的に語っていただいたことで、児童の理解が深まりやすかったように感じた。伝承館見学時のワークシートには見聞きした事実や感想の言葉が記されていたが、保存会の方との交流学习時のメモには、自分ができることやこれからしていきたいといった意見や考えを書き残している児童が出てきた。「日本三大船神事」として自慢できるのは、今までつないできた人たちのおかげであることを多くの児童が理解できたようだ。

（学力育成の視点から）

伝承館や保存会の方々には3年生の児童に合った言葉を選んで話して下さったので、児童も次々に質問しメモを取ることができた。だが、図書館やPCの資料は大人向けが多く、児童には難しい言葉もあった。国語辞典で意味調べをしたり、絵や写真を手がかりに友達と情報交換をしたりと、自分なりの方法で課題に向かっていく姿が見られたのは、伝えたい思いの強さではないかと思う。2年生への発表時にも、2年生からの質問に自分の言葉で一生懸命に答える姿があった。また、学

\*取組の様子がわかるような写真を数枚貼り付けてください。

（このデータをHP等に掲載することがありますので、写真は必ず承諾を得たものを貼り付けてください。）

習の振り返りには、「自分が伝えたい内容を見出し語で短く書き表すことができた。」「2年生が分かるように、劇やクイズ、電子黒板で紙芝居などの工夫をした。」といった学習技能や思考力・表現力に関する自身の頑張りを記す児童もいた。

#### 4 課題や今後の展望

今年度より個々にタブレットが支給され、情報収集の場面では、機器を使い慣れていくことで操作の習熟度が上がっていくが、機器を使用したことで児童にとって適切な資料が得られるのか見極めが必要である。「整理・分析」場面では付箋や「まなボード」の使用が有効な場合もあるので、効果的に取り入れていける授業の構想力を教師自身が身に付けていきたい。

保存会の方の中には、公民館や消防団の活動でも顔馴染みになった方がおられ、その安心感から児童は距離感をぐんと縮めた。「ひと」とつながることを大切にしたいという思いから、保存会の方々に、お礼の手紙と一緒に発表会の様子を撮影したDVDを贈った。また、お世話になった方々に年賀状を書いて投函する学習も行った。折に触れてこのような経験を重ねていくことで、児童自ら地域の「ひと・もの・こと」に関わっていってくれることを期待している。

\*取組の様子がわかるような写真を数枚貼り付けてください。

(このデータをHP等に掲載することがありますので、写真は必ず承諾を得たものを貼り付けてください。)